



「枚方が好きやん」代表

余田 慎太郎さん

◆よだしんたろう 枚方のさまざまな情報を共有できるフェイスブックグループ「枚方が好きやん」を平成25年設立。SNSで枚方を発信する「ひらかたプロデューサーズ」メンバー。西禁野1丁目在住。36歳。

「枚方が好きやん」は文字通り、市内外の枚方好きがネット上に集うフェイスブックグループのこと。その管理者としてメンバー1万人以上を統括する立場にあるが、「みんなから『大変やろ』とか言われますけど別に」と、決して力むことはない。

グループ内では、お気に入りのお店など市内の情報をメンバーがどんどん投稿したり、テニスや自転車、育児にラーメンまでさまざまな「大人の部活動」グループも作って実際に集まったりと、枚方のありとあらゆる情報をネタに盛り上がる。「自分の住むまちが365日楽しくなれば最高でしょう?」。昨年は市内の加盟店で買い物や飲食をすると100円につき1ポイントが貯まる「YANCA (ヤンカ) カード」も始めた。かかった費用700万円は全て自腹。現在6000枚を発行し加盟店は約50店までに。加盟店は利用金額の1%を「枚方が好きやん」に寄付しても

らう仕組みで「この1%を枚方の楽しいコトやモノに使っていきます」。あふれるアイデアと実行力、世代や職種を問わない人脈の広さ。メンバーからは「しんちゃん」と呼ばれ、慕われている。

枚方で生まれ育ち、大学を1年足らずで中退してすぐ、世界14カ国を1年かけて1人で旅した。そこで出会った人は「みんな地元を愛していました。それに比べて自分はどうかんだと」。帰国後就職するが、数年後に父親が亡くなり家業の工務店を継ぐことに。「もう必死で。何かを楽しむ暇なんてありませんでしたね」。そんな中、自分を支えてくれる地元の仲間たちの「枚方愛」の深さに気付く。「自分のまちのことをもっと知りたいと思うようになりました」。

5年後の淀川でとんでもないイベントを計画中だ。「賞金5000万円のいかだレースです。想像するだけで楽しいでしょう?」。冗談?いや、この男は本気だ。



No.36 かわいい愛の使者

長尾谷町の松下孝雄さん(73歳)が昨年12月に淀川河川公園(枚方地区)で撮影。「在原業平が京に残した恋人を思って詠んだ歌に登場する『都鳥』は、冬の渡り鳥ユリカモメだといわれています。かわいい愛の使者ですね」。同公園へは枚方公園駅から徒歩約10分。



枚方の魅力を再発見できる風景写真を大募集。街中もOK。▶応募 電子メールに住所・氏名(ペンネーム希望の場合はペンネームも)・年齢・電話番号・電子メールアドレス、写真の説明を書いて写真データを添付し広報課(✉kouhou@city.hirakata.osaka.jp)へ。

※応募作品は市公式のフェイスブックやインスタグラムで公開します。